

@幸せな贈り物

苦痛

「大ヒット」の中に
隠されている

悪霊を見れば
大ヒットする “NO”

大韓民国の芸能界には、世界のどこにも見られない興行の俗説があります。それは「悪霊が現れれば大ヒットする」という俗説です。多くの歌手が新しいアルバムを準備するとき、録音室で悪霊の声を聞いたという経験があって、ときには、録音された歌の中に正体不明の声が挿入されて、実際に大ヒットしたというニュースがあり、映画でも撮影中に悪霊の形を目撃したあと映画が大ヒットして興行に成功したというニュースにしばしば接することができます。今はむしろ、さまざまなエンターテインメントのプログラムに出演するスターの悪霊の話が一つの広報手段になって、映画、ドラマ、特にレコードの売り上げに多いに役に立つ手段として用いられたりもしています。録音室でエンジニアの後に立っている悪霊を見たあと、大ヒットしたというチャン・ユンジョン、録音中に「もういちど」という正体分からない声を聞いたというセブン、人気タレントのファン・ジョンウンは、ドラマ<エデンの東>に出演中に占ってもらいに行ったとき、当時、占い師が CF で大ヒットすると言ったが、本当にその年夏 CF で大ヒットしたと明らかにしたりもしました。そうかと

思えば、最近、退屈になっていた歌謡市場を揺さぶり起こして全盛期を謳歌している「ギャグマン」ユ・セユンが「UV」グループは悪霊を見てこそ大ヒットすると言って、むしろ世界最初に悪霊のための公演を繰り広げたりもしました。

ところで占い師を尋ねたり、悪霊を見た経験を通して大ヒットを夢見る芸能人の中には、共通した心理があります。芸能人という職業自体が未来に対する不安感が大きい職業で、多くの芸能人の自殺が示すように、安定しない生活から来るストレスは彼らを困らせる最も大きい敵です。それゆえに、自然に大ヒットを夢見て占い師をしばしば尋ねるしかなくて、ある面では腕がいいという占い師が彼らの心情をなだめる憩いの場になったりもするというのです。チュ・ヨンミ、コラムニストの記事によれば、タレントのハン・イエスルは、スーパーモデルとしてデビューしたあと、名前が知られるまで数回、占い師を尋ねたのですが、占い師は芸能界成功のために名前を変えろと言ったそうです。実際にハ・イエスルは、当時「キム・イエスル」という名前で時々活動をしていたのですが、この占い師の話聞いて名前を変えたあと、常勝疾走できたということです。トップスターも占い師の力を借りる場合が多いと言われています。元祖韓流スターのアン・ジェウクは、中国進出の有無をおいて相当に悩む中で、何人かの占い師を回って、自分の中国進出に関する助言を聞いたということです。そして、トップスターは、出演するドラマを選択する時も占い師を尋ねて、占い師の助言を聞いて選択する場合も多いと言われています。つまり、今日の芸能界だけでなく、政治界、すべての文化が何か目に見えない暗やみの文化の影響を受けていきつつあることだけは否めない事実です。

それなら、はたしてそのようにして大ヒットすれば成功だと言えるのでしょうか。世界に成功した数多くの芸能人の自殺と、エリート、社会の指導層の自殺を見れば「大ヒット」を夢見るようにさせる暗やみの文化が、むしろ不幸のはじまりだと言うことができるのではないのでしょうか。ところで、なぜこのような文化はなくならないで、ずっと大変なにぎわいを見せているのでしょうか。

悪霊につかれたら “YES” おしまいだ

なぜ聖書は世の中のどの本にも明らかにされていなくて、話しながら暗やみの勢力に対する話を赤裸々に暴いているのでしょうか。その暗やみの存在の実体が事実であるからではないのでしょうか。ないことをあると言うのも悪いうそですが、あることをないというのはさらに悪いうそです。みなさんは人生を生きてきて、何か知らないうちに、自分の人生の運命と運勢を左右して不幸にさせる勢力があると考えてみたことはないのでしょうか。むしろシャーマンは、暗やみの勢力の存在を確信していて、本人の口で悪霊につかれて占っていると話します。ところで、シャーマンの家庭を調べたことはありますか。自分の運命と家庭の問題を解決できない程度ではなく、その子どもたちは崩れているのを見るようになるでしょう。大ヒットを夢見るようにさせ、人間を不幸にするその暗やみの実体は何でしょうか。

聖書はその名前をサタンあるいは悪魔、その手下を悪霊だと明らかにしています。創世記3章を見れば、目に見えないサタンは、目に見える蛇を利用してはじめから巧妙なうそで人間をだまして神様を離れるようにさせました。その結果、人間のたましい（霊）は、サタンに支配されて、苦難と失敗の中に、願ってもいない苦痛と分からない問題がからまって混乱して人生を生きるようになったのです。いったいサタンはどんな存在で、どこからきたのでしょうか。ヨハネの黙示録12章9～12節を見れば、天から落ちた御使い、墮落した御使いだと話しています。エゼキエル書28章13～17節には、天国で音楽を担当した御使いが高ぶるようになって、神様に敵対して墮落して追い出されるようになったということ

です。テコンドー8段が墮落しても、その力は残っているように、御使いの力を持って追い出されたサタンは、人間に現れて人生と家庭を倒し、社会と人間関係を倒して、墮落経済を作って暗やみの文化を作っています。特に神様を知らないようにさせて、神様と遠ざかるように事を計画しています。サタンはいつでも巧妙に神様でない他の偶像に仕えるようにさせます。そして、おかしい宗教を作って、無駄になるむなしい人生を生きるようにさせます。文化と音楽という名目で快楽を与えるふりをしながら、まことの幸せを奪っていったり、暗やみの組織を立てて、たましいを荒廃させて地獄に入る時まで人間を困らせます。聖書は、このサタンが偽りの父で、滅ぼす者であると確かに明らかにしています。このサタンの働きに勝つ道を聖書はまた明らかにしています。創世記3章15節に、女の子孫が蛇の頭を踏み砕くと言われました。言い換えれば、イエス・キリストが来られてサタンの権威を打ちこわされるというみことばです。ヨハネの手紙第一3章8節に、イエス・キリストはこの世に来られて悪魔（サタン）のしわざを打ちこわされました。サタンの権威から解放される道になって下さいました。だれでもイエス・キリストを信じる者にサタンの力を制御する権威、悪霊を追い出す権威をくださると約束して下さいました。今でもイエス・キリストの御名を呼べば、サタンと悪霊の勢力は離れるようになります。イエス・キリストとともにいる勝利の祝福がみなさんの祝福になることを祈ります。

「イエスは十二弟子を呼び寄せて、汚れた霊どもを制する権威をお授けになった。霊どもを追い出し、あらゆる病気、あらゆるわずらいをいやすためであった。」（マタイの福音書10:1）

...

「しかし、私たちは、私たちが愛して下さった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」（ローマ人への手紙8:37-39）

人生のむなしさと 飢え渴きの解決の Key

多くの財産を持つひとりの人が新聞にこういう広告を出しました。「だれでも自分の人生に本当に満足すると自信を持っている人、そして、その事実を証明できる人に一万ドルの賞金を与える」と、決められた日に数百人の人が集まって、いろいろな理由を言いながら自分が本当に満足している生活を送っていると証明しようとしてきました。しかし、結局、どこのだれも一万ドルをもらうことができませんでした。その理由はこの広告主が投げた最後の質問のためでした。「あなたが本当にそんなに満足に人生を生活しているならば、なぜ私が与えるという賞金をもらうために訪ねてきたのですか？」みんながこの質問にうろたえていてその場を離れたということです。人間の渇き、欲求は、はてしないということを示す短い話です。このような人間の欲求は、まるで海の水を飲むようで、飲めば飲むほどさらに深い飢え渇きの中に陥るようになります。

いったい人間になぜこのような霊的葛藤、たましいの飢え渇き、むなしさ、不安、あせり、恐れがやってきたのでしょうか。まさに創世記3章で発生したはじめの人アダムが罪を犯したことから始まったのです。本来の人間は神様のかたちとして造られた唯一の存在でした。神様と交わりながら神様に栄光をささげるように創造された人間が、サタンのうそにだまされて、神様のみことばに聞き従わない罪を犯すようになって、すべての祝福がのろいに変わってしまいました。罪を犯した人間は神様を離れて、罪とのろいの中でサタンの奴隷のようになり、永遠な滅びの道に行く存在になったのです。魚が水の中に、木が土地に根をおろして、鳥が空中を飛びながら生きなければならないように、人間は神様とともに生きていくべきです。ところが、そのような生活を送れなくなって、人間はあらゆる方法で恐れとのろいをなくすために努力をします。それがまさに宗教です。むなしさと霊的な飢え渇きから抜け出そうと、人間の方法を使って努力をするのです。ところで、問題はこういう人間的な努力が悪いことではないのですが、すればするほど、さらに訪ねてくる飢え渇きは否定することも、解決することもできない現実です。それゆえ、社会は不正と腐敗、偽りと利己主義、組織暴力団レベルの学校暴力文化と、非人間的ないじめ文化がますます私たちの次世代の現場まで掌握していきつつあるのです。人間の努力で解決できないそのなにか、それがまさに霊的な問題で、霊的な暗やみの存在の実存です。それで、神様の方法は他のものでないイエス・キリストを通した霊的な解放です。この道に入る時だけが人間自らが解決できない3つの問題が解決されるのです。人生の根本問題である神様を離れた問題、罪の問題、滅びの根源になるサタンの問題という鎖を解く鍵がまさにイエス・キリストであることを聖書は証明しているのです。イエス・キリストを信じて私の人生の主人として受け入れるとき、人間の霊的な飢え渇き、むなしさ、恐れは一気に解決されます。その自由こそが、まさにイエス・キリストを通して神様が与えようとされているまことの自由なのです。

「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。」ローマ8:1~2

神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してくださったキリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもの 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

この方がその方ですか？



イラスト：ケン・シヨウゴウ

朝鮮戦争の苦しみが残した傷は、いまだに多くの
人々の心に深い苦しみと痛みを与えて、いやされる
ことができない傷跡として存在している。幼いとき
に別れて、他人の家に住み込んで生きていた人が、
最後に家族に会うようになったが、姓も名前も変わ
ったまま年を取って出会うようになったので、本人
を確認するのも、いろいろな手順を踏むので難し
い時間を送ったという残念な話を知っている。

存在しているすべてのものには名前がある。場合
によっては存在しないことにも夢が多い想像家は名
前を付けておいたりもする。人間の知識で知ること
ができる存在もあるが、体験でだけ知ることができ
る霊的存在にも名前がある。神を経験するのは簡単
なことではない現象なので、少数の霊的な能力があ
る人だけ、その知識を持って短く説明するので、大
衆はその霊的知識に近づく過程を知らず、だいたい
そうだろうという無知を知識だと思っている場合が
多い。これは宗教的語意を通して事実に基づくのだ
が、霊的世界に堪能な宗教資料は主観的でなく、客
観的でなければならず、その経験が事実的であるべ
きで、表現が直接的でなければならぬ。そのよう
な表現はただ聖書だけを通して現れる。しかし、聖
書さえも原文に現れた用語を正確に表現できないの
で、宗教的現象を分別できなく混乱を与えるもの
がある。原文と違うように現実に合うように適用する
翻訳が、かえって問題の根拠になったりもしたが、
そのうちでよく見ることが悪霊だ。普通、悪霊は国
語辞典で「死んだ人の霊」だと話す。そのように見
れば、日本や韓国の風習で先祖の霊に供養する方式
は正当な理由となる。亡くなった人々の霊に心をさ
さげて供養するのは、人間の倫理としてできること
で、他の見方をすれば当然しなければならないこと
だ。しかし、重要なのは、はたしてこの方がまさに
私たちのその方なのかということだ。〈正しい聖書〉

には、その霊は悪霊だと表現している。私たちがこ
れまで知らなかったのが、供養するときにくる悪霊
（死者の霊）が先祖の霊だと思っていたが、事実は
悪霊がその位置をだまして装った霊的存在だったの
だ。悪霊（死者の霊）という用語は、シャーマンや
霊的な行事で使われる用語であるが、聖書を翻訳す
る過程で現実的に近づいて悪霊という単語を採択し
たので、長い間、混乱を経てきた。それなら、悪霊
はいないのだろうか。違う。悪霊はいる。現実の中
で、現象の中では存在するが、聖書にはない。聖書
にはその存在をサタン手下である汚れた霊どもだと
話す。したがって、今からでも過去の考えを捨て
て事実の位置に立たなければならない。供養する
ときに現れる悪霊（死者の霊）は、死者を装った別
的存在だ。お祓いをするときに現れる悪霊（死者の
霊）も、苦しんでいる側の過去の霊的知識を知って
います。霊が現れるのであって悪霊ではない。人生は
神様を離れた後に、このように装った悪霊の多様な
姿に苦しめられて押さえられて苦しみながら死より
劣った生活を送っている。それでイエスがキリスト
になられた。先祖でもない存在に先祖の礼を尽くす
ので、先祖のようにふるまっているが、先祖は供養
を通して記念するのではなく、その業績を通して記
念する別の礼を尽くさなければならない。人生が霊
的事実にだまされたので、これまで苦しめられて
きたが、もう神様に会う道が開いて、偽りの名前を
持った悪霊にだまされなくて、かえって正しい名前
で自由を得る祝福の時間が戻った。これまで悪霊を
呼んで苦しんでいた方ならば、イエスはキリストと
今、告白しよう。存在もしない死者の霊を装った悪
霊は、千里万里に逃げて、心は喜び、安らぎを味
わうようになる。

チョン・ヒョングク（福音コラムニスト）

* 相談したい方はこちらまでどうぞ